



医療経営士ニュース | これからの医療現場を担う経営人材のための機関紙

# MMS NEWS

2026 5 月号  
Vol.183  
毎月1回発行(通巻183号)  
編集:日本医療企画

一般社団法人日本医療経営実践協会 〒104-0042 東京都中央区入船3-8-7 ザ・ロワイヤルビル5階 TEL.03-3553-2906 http://www.JMMPA.jp/

## 第15回「全国医療経営士実践研究大会」東京大会

# バラエティに富む講師陣が登壇 多彩な内容へ高まる期待

11月21日(土)・22日(日)にステーションコンファレンス東京で開催する第15回「全国医療経営士実践研究大会」東京大会のプログラムの全容が明らかになってきた。登壇者や講演の内容についてお伝えする。

### 地域社会を視野に入れた幅広い内容の講演がそろそろ

本大会テーマである「地域とともに歩む社会性豊かな医療の実現」を踏まえた基調講演は、当協会副代表理事でもある足利赤十字病院名誉院長の小松本悟氏に決まった。足利赤十字病院の新築移転では、地域に開かれた病院としての理想像を実現。足利市では同院を中心としたまちづくりが進むなど、まさに地域とともに歩む医療の姿を体現させてきた小松本氏の金言を深く心に刻んでいただきたい。特別講演には厚生労働省から講演者を招へい。未曾有の病院危機を厚生労働省はどう考えているのか、そのなかで医療経営人材の役割をどのように位置づけているのか。医療経営士にと

って必聴の内容となる。続いて株式会社メディヴァ取締役の小松大介氏による2026年度診療報酬改定についての講演が行われる。全国大会において「診療報酬改定」そのものをテーマとした講演が行われるのは今回が初めて。現場での肌感覚も含めた最新情報に耳を傾けたい。さらに、多摩大学医療・

介護ソリューション研究所副所長の石井富美氏を座長に迎えた医療経営士による座談会の開催も決まった。参加者は関東支部で活動中の医療経営士自主研究会から、多摩研究会の中野雄介氏、神奈川研究会から金城悠貴氏、ちば研究会より出雲貴文氏、さらに新設の医療経営士埼玉研究会から亀山裕史氏が登壇する。

### 地域社会を視野に入れた演題発表にも期待

昨年多彩な内容で大会を盛り上げた医療経営士による演題発表については、最大16枠を予定している。「社会性豊かな医療の実現」という大会テーマに即した、病院という枠を超える広がりを持った取り組みの発表にも期待したい。なお、今大会の大会長は、当協会副代表理事である元株式会社エスアールエール取締役会長・代表取締役社長の小川真史氏が務める。大会への参加申し込みは特設サイト (<https://conference.jmmpa.jp/>) から。プログラムの詳細についても同サイトで情報を随時更新しているのでチェックしていただきたい。

### 第15回「全国医療経営士実践研究大会」東京大会 プログラム(抜粋)

(敬称略)

#### 1日目(11月21日)

##### 【開会式】

##### 【基調講演】

地域とともに歩む社会性豊かな医療の実現  
——地域医療を守るために何が必要か

▶ 小松本 悟(一般社団法人日本医療経営実践協会副代表理事/日本赤十字社足利赤十字病院監督官兼名誉院長)

##### 【特別講演】

厚生労働省は病院の経営危機に  
何をすべきか

——医療経営人材に期待すること(仮題)  
▶ 厚生労働省

##### 【講演】

2026年度診療報酬改定が病医院経営に  
与える影響とその対応

▶ 小松 大介(株式会社メディヴァ取締役)

##### 【医療経営士演題発表】

##### 【懇親会】※別会場

#### 2日目(11月22日)

##### 【医療経営士演題発表】

##### 【座談会】

病院経営が危機的状況にある今こそ、  
医療経営士は一致団結し、使命感を持って  
地域医療の崩壊をくい止めよう!

▶【座長】石井 富美(多摩大学医療・  
介護ソリューション研究所副所長)

##### 【表彰式・講評】

## 第15回 全国医療経営士実践研究大会 東京大会

開催日  
2026年  
11月21日(土)  
22日(日)

大会  
テーマ  
**地域とともに歩む社会性豊かな  
医療の実現**  
——病院経営が危機的状況にある今こそ、医療経営士は一致団結し、  
使命感を持って地域医療の崩壊をくい止めよう!

会場 | ステーションコンファレンス東京

※詳細・最新情報はホームページにてご確認ください。

【お問い合わせ先】 一般社団法人日本医療経営実践協会事務局 ☎03-3553-2906 taikai@jmmpa.jp

# 正しい情報をいち早く収集し 医療材料の欠品を防ぐ取り組みを

中東情勢に関連するナフサ不足の問題については、日々さまざまなニュースが配信されている。政府は医療分野については目途が立ったとしているものの、先行きは不透明。そのようななか、病院の資材管理の最前線で活躍する医療経営士はどのように考えているのか、お話を伺った。

## 膨大な廃棄物や過剰在庫などを 改めて見つめ直す機会に



社会医療法人いち樹会尾中病院  
医療機器管理室/手術中央材料室  
主任

青山裕介氏

今回のナフサ欠品問題は、コロナ禍の時とは状況が全く異なると捉えています。コロナの時はモノはあるのに流通が止まって届かない状態でしたが、今回は「材料そのものがない」という事態であり、広範囲に影響が広がるのではないかと強い危機感を持っています。ただ、世間ではインク業界やゴミ袋の不足が大きく報じられています。医療界は優先順位が高く保たれているためか、現時点では影響の現れ方は緩やかです。それでも、現場の肌感覚として手袋に関しては確実に納品が遅れ始めているのを実感しています。

このような有事の際、最大の対策になるのは「いかに早く情報を入手し、分析して動くか」という点に尽きます。だからこそ、普段からディーラーやメーカーと密な関係性を築き、アンテナを張っておくことが極めて重要だと感じています。ディーラーに聞くと新規の問い合わせが殺到しているそうです。メーカーがいくら増産していても、各病院が不安から「買いだめ」に走ってしまうと、一気に物品が足りなくなってしまう。自院の都合だけを優先して過剰に在庫を抱え込むべきではないと思っていますし、「過剰には置かない、溜め込まない」ということを強く意識して調整しています。

今後、治療に直結する器具が入らなくなれば、いよいよ患者さんの治療に深刻な影響が出てきます。最終的には、国がナフサの割り振りをどうコントロールし、医療業界へ優先的に回してくれるかが焦点になるでしょう。こちらとしては国の管轄下で、できることをやっていくことしかないと思っています。

ひとつ注意しておきたいのは感染対策です。この状況において院内でコロナのような感染がでてしまうと、資材の使う量が一気に増えてしまいどうしようもなくなってしまうので、感染対策への意識は改めて高めておく必要があると思います。

この度のインク不足のニュースを見て思ったのが、医療材料のパッケージについて、ここまでカラフルである必要があるのかなということです。もちろん間違えないように、という配慮はわかるのですが、そういったことについても業界全体として考えていく必要があるのではないのでしょうか。それだけでなく、医療材料や薬品の廃棄量、病院から出るゴミの量等、改めて考え直すタイミングにできるとよいのではないかと考えています。

## 医療崩壊を起こさないため 自分たちが最後の砦に



社会医療法人財団石心会川崎幸病院  
事務部副部長兼資材課課長

青木大介氏

現在、中東情勢の影響によってさまざまな動きがありますが、幸いなことに現時点で私たちの病院が直接的な実被害や影響を受けているのはありません。他の病院の担当者とも連絡を取り合っていますが、今のところ実被害は出ていないのが現状です。

コロナ禍の時は、私も含めて完全に「取ったもの勝ち」のパニック状態でしたが、今回の中東情勢においては物流業界全体がある程度初期の段階からきちんと統制(制限)をかけてくれています。国の対応スピードも非常に早く、厚生労働省

が医療機関向けに手袋を放出するというアナウンスも5月14日にはありました。国が早い段階で動いてくれたことは心強く感じています。

しかし、4月の終わり頃から、現場の職員から「大丈夫なのか」という問い合わせがいくつか寄せられました。実際に職員と話してみても気づかされたのは、「流通制限」の正しい意味が現場に伝わっていないということでした。「制限」という言葉だけが独り歩きするとネガティブな印象を与え、不安を煽ってしまいます。そこで5月の頭には全職員に対して正確な状況を説明し、安心してもらいました。

当法人のような医療グループが買い占めに走ってしまったら、医療全体のためになりません。自分たちのことだけを考えた身勝手な行動は慎むべきだと考えています。社会全体のルールと方針に従い、その中でできる限りの対策を講じて乗っかっていこうと考えています。

日々の業務の中では紙のクラフトテープやゴミ用のビニール袋に制限がかかってきていますが、患者さんの命に直結する重要な医療材料についてはメーカーやディーラーには何度も電話をかけ、「お金のことは後からどうにでも調整するので、とにかく流通だけは絶対に確保してほしい」と強く、繰り返しお願いをしています。特定の医療材料が本当に底をつけば、いずれ「この手術は提供できない」という苦渋の決断を迫られる日が来るかもしれません。私たちの役割は、その最悪のジャッジを迫られる日を、物資の確保やさまざまな工夫によって、一日でも長く後ろへずらし続けることです。

職員に安心して職務に集中してもらうことが、ひいては患者さんの命を守り、医療崩壊の阻止につながると考えています。私たち現場にできるのは、ディーラーやメーカーと密に連絡を取り、信頼関係を築きながら安定供給に向けた調整と働きかけを粘り強く重ねていくこと。そうした強い覚悟を持って、日々の調達業務に臨んでいます。

## 医療経営士埼玉研究会キックオフセミナー開催 関東支部7番目の自主研究会が始動 埼玉研究会が初のイベントを実施



日本医療経営実践協会関東支部「医療経営士埼玉研究会」は5月22日(金)、キックオフセミナー「最新医療政策の動向と経営支援アプローチ～グループ本部機能による診療報酬改定対応の視点～」をオンラインで開催した。全国から50名弱が参加したセミナーの様子をお伝えする。

### 最新医療政策の動向について 内部からの視点で現在と未来を語る

昨年11月に開催された「全国医療経営士実践研究大会」神奈川大会で神奈川研究会の活動に刺激を受け、「埼玉にも研究会を作りたい」と声を挙げた塩寺明日香氏(戸田中央メディカルケアグループ本部)が発起人となり、有志を集い、創設した医療経営士埼玉研究会(以下、埼玉研究会)。この度、初のイベントとなるキックオフセミナーが開催された。

冒頭、セミナー開催に当たり埼玉研究会の代表を務める医療法人社団東光会戸田中央産院事務長の亀山裕史氏が登壇。研究会創設に尽力いただいた方への感謝を述べたうえで「病院経営が厳しくなるなかで、本日のセミナーで明日に向かってどう進むのかのヒントを見つけてほしい」と参加者へメッセージを送った。

第一部では参議院議員・石田昌弘氏の秘書を務める、医療経営士2級の橋本祥太郎氏が登壇、「最新医療政策の動向～人口減少時代の地域医療～」と題した講演を行った。まず橋本祥太郎氏は2026年度診療報酬改定の背景について、「物価や光熱費が大幅に上昇するなかで、地域医療構想の中心となる病院の経営をどう支え

るのがテーマだった」と解説。プラス3.09%(2026・27年度の2年度平均)という今回の数字は、国民の社会保険料の負担を増やさないなかでの最大限の数字だったと話した。

さらに人口減少のフェーズに入っている現状において、看護師の養成校と入学者が減少しているデータを示しつつ、人を増やしたくても増やせない時代になっていると強調。人がいないことを前提とした考え方が求められるとした。地域医療においても病院単体ではなく地域全体をみるなど、医療機能のマルチタスク化が必要だと述べた橋本祥太郎氏は、「医療経営士にはその調整役を担ってほしい」と期待を寄せ、「従来の制度の枠組みを超えた発想が必要。その実現のために政治家を使ってほしい」と訴えた。

### 実践例を踏まえた解説を通して 大病院グループ経営の一端に触れる

第二部では、埼玉県を中心に100以上の事業所、1万6千名を超える職員を抱える戸田中央メディカルグループ本部の総局室室長兼経営支援部副部長である橋本敦氏が登壇、「経営支援アプローチ～グループ本部機能による診療報酬改定の視点～」をテーマに講演を行った。

橋本敦氏は、2026年度診療報酬改定で新設された急性期病院A・B一般入院料について、同じく新設の看護・多職種協働加算と合わせ、自グループのそれぞれの病院がどこを選択するのか、具体的なシミュレーションも踏まえながら解説。さらに現場の感覚ではなくデータに基づく適正な人員管理が経営持続性の鍵だと述べ、施設基準上の必要数を踏まえた適正な配置数の算出方法や人員管理について、自グループの実践例を紹介。大きな病院グループの経営の一端を惜しみなく伝えた。

今回のキックオフセミナーで終わらず、活動を継続させていくことこそが重要であることは言うまでもない。次回は7月に医療経営士沖縄県勉強会とのコラボ企画が予定されている。詳細については本紙及び協会ホームページに掲載するのでチェックしていただきたい。



セミナー終了後には講師2名も加わり医療経営士埼玉研究会の事務局メンバーで記念撮影



# 最新医療経営

最新情報を踏まえ新たな病院像を描く  
「経営の時代」の羅針盤  
PHASE3  
フェイス・スリー

6月号  
好評  
発売中

### 特集

## 選ばれなければ淘汰へ 医療機関の命運を握る看護戦略

2040年に向けて人口減少と高齢化が急速に進む中、医療や介護の複合的なニーズが高まる一方で、その支え手が減少することが見込まれる。特に、地域医療を支える看護職員の確保の重要性はより高まっている。日本看護協会の秋山智弥会長は26年4月16日の記者会見において、「看護職員一人ひとりが、ライフスタイルやライフス

テージに応じて、自分の望む働き方で専門性を発揮できる労働環境の確立は、ウェルビーイングはもとより、就業継続や夜勤者確保の点でも極めて重要」と述べた。本特集では、看護職員が将来に向けてその力をいかに発揮し社会に貢献していくために医療機関が考えるべき看護戦略について考察する。

詳細・ご購入は  
コチラ



## 事務局 掲示板

医療経営士の所属をPRしよう！  
所属先の掲載ご協力をお願い

当協会のホームページでは、会員の皆さまから掲載の同意をいただき、医療経営士が所属する医療機関・企業名を公開しています。

医療機関の抱えるさまざまな経営課題を迅速かつ的確に解決できる能力を持った医療経営士

の所属先を公開することで、経営力を持った医療機関であること、医療機関のマネジメントを支援できる人材を有する企業であることをアピールすることができます。掲載の同意をいただける方は、下記URLからご登録ください。

## 【ご登録はこちらから】

<http://www.jmmpa.jp/support/cat108>

会報誌『理論と実践』投稿募集中  
自分の声を会員に届けよう

当協会が発行している会報誌『理論と実践』では、会員の皆さまからの投稿を募集しています。日頃の職務における疑問や悩み、業務改善へ向けたアイデア、病院経営や医療政策・制度に関する論文や問題提起等、内容は自由です。採用原稿については薄謝を進呈いたします。お気軽にご投稿ください。



## 【投稿に関するお問い合わせ先】

E-mail : [info@jmmpa.jp](mailto:info@jmmpa.jp)

## PICK UP 研究会

協会本部後援

医療機関の情報セキュリティ対策セミナー2026  
～医療情報システムの安全管理に関する  
ガイドライン改定解説セミナー～

2026年に入ってからも医療機関におけるセキュリティ事故が発生しています。そのような中、「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」が3年ぶりに改定されます。そこで、今回は「同ガイドライン改定解説セミナー」として、改定作業班で座長を務める、国立がん研究センター情報統括センター長の田中勝弥氏に、基調講演として今改定のポイントを解説いただきます。

さらに倉敷中央病院情報システム部部長の藤川敏行氏に、自院でのセキュリティ対策の取り組みをご発表いただきます。また協賛ベンダー各社が最新のソリューションや医療機関における導入事例を解説。貴重な講演を聞ける機会となっておりますので、ぜひご視聴ください。

## 【開催概要】

- 日時 2026年6月23日(火)  
13:30～16:50開催(13:25～主催者挨拶)
- 形式 オンラインセミナー(ウェビナーを使用)
- 参加費 無料
- プログラム
  - 基調講演①  
「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン改定について」  
講師：田中勝弥氏  
(国立がん研究センター情報統括センター長)
  - 基調講演②  
「倉敷中央病院のUSBメモリ紛失事案と対策」  
講師：藤川敏行氏  
(倉敷中央病院情報システム部部長)
  - ※その他、協賛ベンダー各社による最新のソリューション・導入事例紹介あり
- 主催 株式会社日本医療企画
- 協賛 株式会社レコモット/  
株式会社ソリトンシステムズ/  
エムオーテックス株式会社
- 企画 株式会社オーバル・アドバタイジング
- お問い合わせ  
株式会社日本医療企画 九州支社  
(092-418-2828)

お申し込みは  
こちらまで！



## 日本医療経営実践協会 支部研究会スケジュール

開催日	開催支部	テーマ	講師
6月13日(土)	関西	第41回関西医療経営勉強会 「八尾徳洲会総合病院の過去・現在・未来」	原田博雅氏(医療法人徳洲会八尾徳洲会総合病院院長、 医療法人徳洲会常務理事)
6月19日(金)	東北	第34回みやぎ仙台ネットワーク 「中嶋病院が大切にしている5つのキーワード ～「なかじま5S」で求められる医療をめざす～」	竹下浩二氏(社会医療法人康陽会中嶋病院法人管理室室長 兼 事務長)
6月23日(火)	本部後援	医療機関の情報セキュリティ対策セミナー2026 ～医療情報システムの安全管理に関する ガイドライン改定解説セミナー～	田中勝弥氏(国立がん研究センター情報統括センター長) 東郷剛氏(株式会社レコモット代表取締役CEO) ほか
7月18日(土)	東海	第2回医療経営士富士山サミット	広瀬敦仁氏(加納岩総合病院事務部長) 小林恵美子氏(ニチイ学館)

※日程等は変更になる場合があります。詳細は協会ホームページでご確認ください。

春からの新卒者・中途採用者の研修に最適！ オンデマンド職員研修講座シリーズ

好評配信中！

日本ヘルスケア  
経営学院  
公開講座

# 新入職員研修 ミドルマネジャー研修 WEB講座

講座概要



●講師  
石井富美氏  
(多摩大学医療・  
介護ソリューション  
研究所副所長)

## 【新入職員研修WEB講座(全6回)】

●講義時間…各回約20分  
●受講料…各回 :1,100円  
3回セット :2,750円  
全6回セット :4,950円

## 【ミドルマネジャー研修WEB講座(I/II)】

●講義時間…講座I：約120分/講座II：約90分  
●受講料…講座I：7,150円/講座II：5,500円/  
I・IIセット：11,000円

※講義終了後に内容の理解度が測れる「確認テスト」付き ※受講料はすべて税込



【お問い合わせ先】日本ヘルスケア経営学院 事務局(日本医療企画内) ☎03-3553-2862 <https://hcmi-s.net/>